

平成30年度 第2回岡山市都市・消防政策審議会

と き 平成30年8月22日(水) 9:30~11:10

ところ 岡山市勤労者福祉センター 4階 第2会議室

出席者 委員 後藤会長、猪原副会長、延味委員、齋藤(美)委員、高谷委員
小嶋委員、齋藤(光)委員、万治委員

岡山市 林都市整備局長、栗田都市・交通・公園担当局長、平澤次長、
大杉参事監 川上住宅・建築部長、柳原開発指導課長、
山本交通政策課長
事務局：都市企画総務課

○議 事

岡山市総合交通計画の策定について

表記の件について、資料を基に説明。

○意見等

(意見) 公共交通の維持や利便性向上について

- ・中心市街地で競争が激化している。特に運賃問題が1つの大きな問題で、政令市で100円の初乗り運賃というところはほとんどない。広島も180円に初乗り運賃を変えるなど、路線の競争から路線の維持の方にシフトしている。この現状認識を持っておかないと、計画がいびつになってしまう。
- ・バス路線廃止に対して危機感を持つ郊外の住民が多く、生活圏の中で都市とアクセスができるということが非常に大事だと思うので、行き過ぎた競争に対する調整を行っていく必要がある。9事業者が入り乱れている状況で、どうやって路線の維持を図っていくのか。少子・高齢化で利用者が減っていく中で、希薄になっていく郊外部の路線の維持が、中心市街地の活性化とともに非常に大事だと思う。
- ・トラフィックゾーンは非常におもしろい取り組みだが、都心への自動車流入を少なくするためには、パーク・アンド・ライドなどの受け皿を整備することと連携が必要だと思う。
- ・東山や清輝橋のあたりが渋滞でボトルネックとなっている。そこで重要となるのが、路面電車とバスとのシームレスな乗り換えである。西大寺のバス路線は、通勤時間帯では通常30~40分のところが70分かかる。電車とバスをシームレスに使っていけば10分程度短縮できる。

(回答) 今年度から、公共交通の利便性向上に向けて、バス事業者各社を含む法定協議会で路線の再編や公共交通同士の乗り継ぎなどについて議論し、地域公共交通網形成計画の策定に取り組んでいる。この取り組みを通じて、公共交通が今より便利になることで、みんなが公共交通を利用し、公共交通が維持されていくようになっていけば良いと考えている。今回概要版ということで市民の方にできるだけ読んでいただきやすいような形で現状の課題とかを認識していただいて、皆さんに利用していただくことで例えばバス路線を維持していくと、あるいは拡充していくというふうなことに取り組んでいきたいと考えております。

(意見) 公共交通に対する支援について

- ・岡山市は全国で最も人口に対してバス路線数が少なく、また、補助金が非常に少ない。これは競争の結果であり、事業者が補助金をもらう

ことを良しとしていない。その結果、儲からない郊外の路線がなくなっていく。そうすると、財政的な負担が極めて大きくなっていく。そのときに、一体岡山市が、10年計画のバックグラウンドにある財政的な措置にどれくらいの自信があるのかが気になる。

(回答) 公共交通に対する支援については、法定協議会で議論すればいいと思っている。行政が支援するとしても、事業者に対してか、利用者に対してか、今は何も決まっていないが、公共交通を便利に使いやすいものにして、持続可能なものにするという観点から、しっかりと議論していかなくてはいけないと思っている。

(意見) 路面電車の延伸・環状化について

・施策として路面電車の延伸・環状化が位置付けられているが、なかなか厳しいという気もするが、どうか。

(回答) 路面電車は、経路がわかりやすく定時性の確保ができるという特長があり、中心部では路面電車を生かした公共交通網を形成していきたいという思いを持っている。今年度、路面電車の延伸や環状化について検討を始めたところ。

(意見) 渋滞対策について

・計画を現実化するためにも、渋滞問題が大きなポイントだと思う。特に2号線バイパスの渋滞など東西方向の視点を少し入れとかれた方がよいと思う。

(回答) 2号バイパスの渋滞対策は、国土交通省を中心に、岡山市、倉敷市などと一緒に協議をしており、何らかの手だてを打っていかないといけないものだと考えている。環状化とボトルネック交差点だけやっていくということではなくて、渋滞問題を解決することが自動車交通の円滑な利用につながると同時に、路線バスの定時性、速達性にも効果があると思っているので、しっかり取り組んでいくべきものと認識している。

(意見) 自動車利用の扱いについて

・自動車とマイカーという表現が出てくるが、今ネットスーパーや宅配事業などの物流に関して恩恵を受けている中で、自動車とひとくくりにして、過度な依存が問題であると言われると疑問があるので棲み分けをしてほしい。

(回答) 今生活を支える中で自動車による物流というのはとても重要な位置を占めており、過度な自動車依存というのが物流の自動車利用ということではないと考えている。

(意見) 市の役割について

・市民と交通事業者、行政の三者の連携の図があるが、行政の立場がテレビや報道で見ると余りインパクトがないように思う。交通事業者だけが一生懸命やっても全然先に進まないなというのが一般的な印象である。

(回答) 法定協議会等で三者の役割を改めて協議して、市の果たすべき役割を市民の皆様に明らかにするとともに、より一層力を入れていきたいと考えている。

(意見) 成果指標について

- ・自宅から都心や拠点まで公共交通で30分以内に行ける人口という指標で、30分以内という設定は、市のオリジナルか。

(回答) 便利な水準として30分という閾値を独自に設定した。

(意見) 市民にわかりやすい説明等について

- ・桃太郎線のLRT化は、岡山にとっても全国的に見ても非常に大きな事業だと思う。路面電車の環状化などを含め、市民に説明するときは映像を使ってわかりやすい説明をしてほしい。
- ・路面電車の乗り入れや桃太郎線のLRT、自転車、歩きやすいまちづくりなど、単発ではなく全体像としてどのように変わっていくのかを市民に見せた方がわかりやすい。今の内容は、市民の方には少し難しいのかなと思う。
- ・LRTとは何かと聞かれることがよくある。用語集はあるが、それを見ない人はわからないと思う。高谷委員ご提案の映像を流してみたら本当によくわかると思う。区役所などで流せば、待っている間に皆さんに見ていただけると思う。

(回答) 映像を使いながら理解を深めていくようなことを含めて、今後、市民にわかりやすく説明することについて取り組んでいきたい。

(意見) 計画書の見せ方について

- ・せっかく良いコンセプト、目標があるのだから、それをもっと前面に出してもいいと思う。後ろにあるのはもったいない。このコンセプトと計画で将来の都市をつくっていくのだから、位置付けた施策は全てそこへ向けて修練していくのだと、そういう方向性の出し方が弱いかなと思う。
- ・実現化方策の実施プログラムは、現在がどうで、5年、10年後にこういったところを整備する、という形で記述すればわかりやすくなると思う。

(回答) 例えば大きなキーワードだとかコンセプトみたいのを最初の表紙に書くなど検討させていただきたい。なお、本計画は、今後の方向性や市の考えを示した交通分野のマスタープランであり、それぞれの施策については、今後、各分野の計画を策定する中で取り組んでいくこととしたい。

(意見) 市民の参加・協働について

- ・市民が参加するまでのフェーズとして、認知⇒理解⇒興味⇒参加⇒愛着という流れがあり、「冊子をホームページに載せる」ことは「理解」というフェーズを補強するが、まず「認知」してもらわなければならないとアクセスしてもらえない。コンセプトなどをシンボルとして、例えばバス停や駅、ももチャリなどのチャンネルに表示(フック)することが考えられる。理解を補足するということに一番力が入りがちである。

(回答) 計画のコンセプトや目標などを市民にわかりやすく伝えられるように工夫することを検討したい。

○審議結果 申請内容について承認